

特  
門へ遠13  
番 2209  
巻 32

繪本豊臣勲功記四編二之巻

目録

信長抱怨燒叡山殿衆徒

屬炮矢危急

若任房服秀吉仁智降番

屬伊黑藩城



上  
下  
三  
冊

重治智舌後日根野兄弟

属信忠初戦

前波吉継恨主降織田家

属服坂種勇



繪水豊臣勲功紀四編卷之二

江戸 八功舎 徳水剛補

信長抱怨燒敵山殿衆徒属炮矢危急

事起るに須也る法に機を相く進む時小随ふて忽然と變化をく陣水の流きて形勢を為が像一然に遠响長鳴勢の自由小をて用らこと鬼神も測らざらうしに正しく捕ら軍配あらんを得の大將信長も舌を振らて帰陣し一を以て事やて後阜一漸容あり。自軍の多き夥く戦死常二敵あるのそらも。氏家扑合の炮殺せり。柴田徳家も炮殺せらま。やら危き軍ありと聞一を以て今更小歳遭致息こと。大い後悔ましく。是より姑く出陣の指他もかくして諸公士を正しとぞま。たる致かどに淺井長政一撥せり。孫のむと攻起り。



とめ本下がこめ小總敗軍とありしここも小懲てや門徒一掃もあはし  
 井の指揮小與身せむと總依離散しきゆと長政今一證方なく  
 思慮せぬらんと小信長遠事と听あふ六必定出馬をさす小防衛  
 の備さくんばあじと諸平の要崖小岩せ望きそ士とて分て籠ち  
 とるまの國友 坂田那小岩の 岩少の野村肥後も同公庫頭とて是  
 と守らせ宮部のは若の要崖少の善住房致潤と楠籠らせ  
 若通寺の傍ありしが武術力量抜群をさす山門と雖も一放たあす  
 河水の地ありしが長政大の善住房を益量と稱し侍大將小くこた  
 の岩 同那小岩の南小の丁野若使ち 流布かあ天野と  
 山の要害ハ 山が山の小岩の正南小あり 最大切なんぬと今村掃部  
 阿用造路ち安養寺と守らせ徳志善住房依小と折ふさこめ戦  
 嶺の北岩少ハ 流布の西の小あり 東野た馬分西山丹右と千回  
 中法丸の備門中ら

今防衛の本  
 長政の  
 井軍  
 六防衛と  
 内國の信  
 守りあり  
 今目  
 利しとて  
 て防衛と

嚴重小防衛の準備整えを致しと本城小岩なる中法丸の備門中ら  
 浅井玄蕃段上同林右衛門大野末土佐也 流布かあ天野と  
 こて 浅井の如く圓めを備又敵軍使士と絶て義系出馬と相  
 後ら信長の岐阜小左と遠征伸と听しゆ。然も速日出る  
 と。校務敗と決せんどと同年八月十八日甲乙の戦と勃仕はしめ  
 岐阜城中と散足あり。一應勢立有余人不能善虎を備わ山  
 がの風雲一天地と平地小震動さすや像く接小探せど進發  
 翌十九日申すの當夕横山城小折着あり。明天ハ登く小岩ハ推  
 進黒白の色見えんは時と暮るく後ら唯小當夕大風狂  
 と大木と折瓦石と飛せ横山城も大以小壊壊。城寨壊と吹  
 崩と信長と折るさ氣煩むは法と天災の慮をさすと敵進來るも

量りてし。と諸士を奮めて評決ある。响小秀吉進出漸心算し  
 まてし。小居之日と過る際、破換せ修復つらん備を内小敵進  
 来、拒抗方術の惟あり。と最極小言條は、城は修復せ多きを  
 人技あり、強催し。只造作の准度のみ。復とせし休あり。淺井の  
 名士こそせし。横山破損せしこそ幸なき急小推進せ攻臨さんと  
 違事せり。長政小告りしは、大將智謀小長こそ、大將の故城  
 と窺ひたる小修理の作法寛るよし。長政初と告るを、攻をんこと  
 將依を制止し。決して款向とせしを、そこそ信冠者謀計あり。そ般小  
 園勢の態とせんせり。懼休奇きの準備して、毀つれ計器必懸らん。それ  
 のとありて、先日信長大軍せりて、突發せし。遠方へも推進をた右の  
 て、諸士、姑く、曉議を窺ふ。と事と起さば、控り。越後小秀吉は、

九のりち小於く、大工の人技許多小命ト。本組木を急がせり。らん、健卒  
 軍と強催し。土石を多く運容。二日目の晩天まで、一箇二夜が、中、小修  
 復十分小整ふ。要崖堅固小結構。と、長、信長は感悦深し。と、  
 要崖成能ひを、一月も、と、空を、と、同月廿二日の發天、と、  
 り、總軍と率統り。小居と山本山の間と、新截中嶋と、以、本陣と  
 ぬ。余、吾は、店本奉の色、と、諸本を、敵火と、と、信長の威、や、怖  
 まらん。一士、半、卒、出、合、ね、終、日、城、田、堀、礼、坊、と、亦、七、月、小、横、山、一、橋、城  
 一。亦、八、日、佐、和、山、一、新、投、あり、新、村、小、川、の、支、城、と、小、川、ハ、新、橋、郡、小、あり、流、所、を  
 小、川、の、藤、村、小、新、村、と、の、あり、攻、臨、を、き、方、術、を、り、丹、羽、柴、田、へ、命、せ、ら、る、遠、小  
 よ、り、て、西、將、の、目、直、地、小、支、城、へ、推、進、息、を、續、く、せ、お、起、る、と、遠、小  
 小、防、戦、全、を、九、月、初、日、新、村、死、後、戦、死、し、て、城、惣、北、小、臨、一、

こそ小怖きて小川の城を小川孫市降参を遠國小糸を遠田の種  
 威ハ恐虎ガ乳竹を破るが像く用づく之日ハ常樂寺浦生赤小陣  
 せられ魁軍小命とて西浦の城を攻さるる小糸一校のや城を  
 きバ防衛をたつ力なき城を閉て落失り十日ハ瀬田小をこれ  
 山岡兵濃中が方へ所投あり遠响織田家の老臣軍小を害こと小  
 よつて之條をく君別小を攻させざるに西南のふかふか  
 再び上洛のふかふか小や軍軍軍いと問まわつて信長は先承と笑ハ  
 せ至ハ叶思あり汝傍ハ大敵希小審くことと知ぐさる事ことを心り  
 され林比敵山延曆寺ハ帝都法護の山と號し放遠新援小威  
 を奮ひ仰て朝敵小絶幸と初命台命をも用ゆる事ハ悪逆を道  
 の山徒あり遠响滅亡をこめんバ何時と朝をたつ事あらん是より直

小坂ハ一推進せ延曆寺を焼拂ひ二千ハ泉徳を慶小せん有ハ懶久  
 とくくんと座席を小宣えんと依久間信成明光秀列は同諫  
 かり々ありと比敵山延曆寺ハ頭教密教兼て修学ハ其時四  
 教とも小なるに大道場小ハ文武両門の祈願する事ハ其時又  
 掲より是小依り徳古より弘隆の所成を柄して大衆依我意小強  
 心ふとのとも王法小も是と制せらるるを然とて遠般へ控小此書場を  
 没滅なきハ小法人の望小村ん去来歌徒を絶走は當家ハ歌對は  
 せ一事最も惜き歌為ながら出家の族小ハハ當る後患もあるは此  
 小之宝の号徳小免ぐ至ひ焼棄るゝ命令ハ枉く控思あふ所  
 やと詞を過へ諫言をれども信長更小所管至とて同月十日の  
 曉天より總軍せりて推登り除小言入るる天台山ハ云々置け像く

五時四教と  
 五時ハ  
 華嚴経  
 法華経  
 般若経  
 法苑珠林  
 この經を流  
 する五時ハ  
 四教ハ  
 義通別  
 圓こと也  
 塔佛塔  
 不定こと  
 八教こと  
 佛の四教ハ  
 依り余が  
 兼方のし  
 義通別  
 法苑珠林  
 某のゆ



信長怒く  
比叡山を焼  
衆徒を  
塵ふ

提圍とりのこ一掃ひととぎと攻起せめあがり大衆おほいし倣まね大小おほいし警備しやうび願ねがひ。鐘かねよ法被ほふよ擗たたよ。  
 と寺てらを堂どうく小こ鳴なく起おこる。嶺ね々の殺ころす。透とほへ防まもぐとのこも織お田た。  
 の大軍おほいしを流なが敷し千ち撃うち起おこる。山やまをも崩くづす。勢いきり威いひま。衆しゆ徒と倣まねひ。も  
 まら。是こゝ小こ當あ的ていて死し亡ぼうを。軍ぐん敷し量りやうを。源げん治ち長ちやう洞どう會かい都とて。血ち  
 骸がは積つる。置おく。大おほい將しやう。所ところ指さし揮ひ小こ。統と新あらた軍ぐん。軍ぐん公こう軍ぐん遠えん。皆みな  
 形かたち。岩いわあり。寺てらへ。一ひと圓まる。小こ火ひを。蒐あり。六む的てい。御ご魔ま風ふう烈れつ。吹ふ起おこ根ね。  
 本ほん中ちゆう堂どう。鐘かね樓ろう。強ちやう藏ざう。有あ。佛ぶつ像ざう。善ぜん薩さつ。像ざう八はち万まん。千せんの。聖せい教きやうを。只ただ一ひと  
 燼せん。小こ燒や爛らんせ。小こ。慚あはれ。の。小こも。愚おろち。の。毀くわい。殘ざん。さ。僧そう徒と。衆しゆ。未まと。遠えん。辺へん。  
 の。岩いわ際さい。形かたち。測そくの。山やま嶺ね。小こ。退たい。極ごく。逐しゆく。迫ぱく。孔くわう。殺ころす。遠えん。向きやう。大おほい將しやう。信しん。長ちやう。東とう。坂さか。か  
 大おほい華け。表ひょう。と。心こゝろ。地ち。小こ。攻こう。登とう。諸しよ。軍ぐん。於お。動どう。拳けん。と。所ところ。賢けん。あり。心こゝろ。地ち。小こ。進しん。  
 才さい。能のう。た。小こ。茲こゝ。小こ。山やま。門もん。の。流なが。徒と。を。し。金こん。剛かう。お。擗たた。こ。の。者もの。あり。大おほい。力りき。を。双ふた。の。こ

あり。を。強ちやう。ら。せ。よく。練れん。達たつ。と。武ぶ。術じゆつ。小こ。奢しや。り。惡あく。僧そう。あり。教きやう。示し。り。信しん。長ちやう。の。  
 攻こう。登とう。る。を。遠えん。漢かん。を。竊せう。く。潛せん。小こ。宮きやう。教きやう。の。紫むらさ。小こ。洞どう。里り。右みぎ。任にん。房ぼう。と。若わか。擗たた。ら。ひ  
 某たれ。佛ぶつ。教きやう。信しん。長ちやう。を。擗たた。毀くわい。人ひと。と。後あと。者もの。と。も。伴ばん。を。曾そう。二ふた。個こ。如ごと。意い。が。小こ  
 攀つか。藤ふじ。り。大おほい。樹じゆ。盤ばん。根こん。岩いわ。陰かげ。小こ。手て。松しょう。丹たん。引ひ。て。後あと。蒐あ。り。終しゆう。も。如ごと。意い。を。信しん。長ちやう。  
 旗はた。か。お。擗たた。を。散さん。格かく。せ。も。馬うま。と。心こゝろ。懸けん。不ふ。進しん。せ。る。が。う。る。先せん。騎き。た。る。馬うま。  
 蹄ひづめ。を。擗たた。と。進しん。得とく。と。も。備び。騎き。の。馬うま。を。待まち。ん。と。め。大おほい。華け。表ひょう。の。小こ。馬うま。と  
 之これ。指さし。揮ひ。せ。る。と。二ふた。個こ。の。信しん。遠えん。小こ。腕うで。と。ち。を。握にぎ。く。大おほい。小こ。悅えつ。ひ。を。進しん。く。も。  
 相あひ。擗たた。と。弓ゆみ。小こ。矢や。を。獲と。む。善ぜん。任にん。房ぼう。の。銃じゆう。丸まる。を。こ。め。射や。通とほ。の。と。し。遠えん。れ。れ。は。  
 糸いと。束たば。の。修しゆ。練れん。遠えん。時とき。あり。と。粗あら。礮たう。と。截き。て。放はな。す。射や。當あ。り。箭や。を。射や。つ。て。遠えん。く。  
 馬うま。の。右みぎ。後あと。丁てい。と。射や。敵てき。と。り。馬うま。の。強ちやう。死し。火ひ。の。像ざう。く。四よ。足あし。を。擗たた。て。飛と。舞ま。り。  
 先せん。や。落お。馬うま。と。見み。へ。り。が。る。渺みょう。小こ。遠えん。せ。信しん。長ちやう。を。も。擗たた。擗たた。の。如ごと。形かたち。小こ。



信長の強運  
金剛相摸  
善住房が  
炮火と遁う



多分令別お探へ最朽憾く。驟断とありて夫志烈しく。二銃を  
截て放しける小神運下り後田信長銃を射挿く。後小助へ  
一後まが約より脊骨を射事き。血烟をて倒れし仕を近士の門に作  
天を。際もあざざる小杉が火蓋を截て敵軍發を流しゆく運の  
強き小や。たの殺せ終小挿う流丸の樹間へ花散り。旗本の諸士  
驚に發し。その仕をよ殿提と呼り喚り。敵百人如きお樹を蓋甲  
小膽作を二無と小鳥流も蒐正黒小なりて起起りる小を。あ保大  
小熱傷なり。をを小思へ。あまも又天命ありて歎息は。洞の抜  
徑悄悄と宮敷の堂へ逃流りぬ。

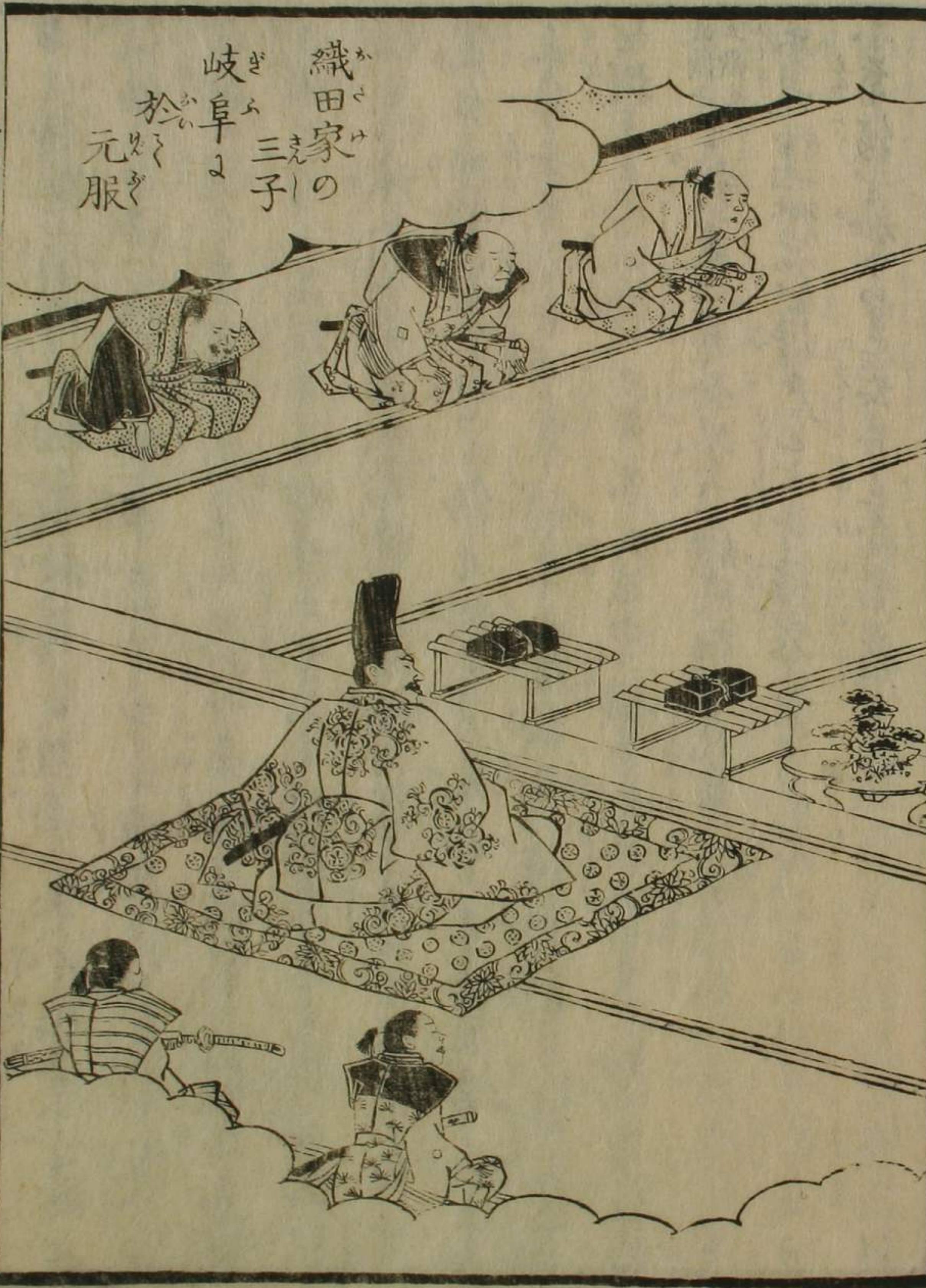
后信房休書吉智仁降参属伊黒落珠

命救へ夫小あり人。是を殘害とす事能をを。お探が。可精。后信房が

炮形へ鬼神も怖く妙あり。みぐる。西矢。双炮。謀ること。信長の言  
運小して天地一時小崩り。こも。身命。恙。う。る。べ。然。バ。二。人。の。悪。信。々。  
既小讀む。逃。失。り。し。と。信。長。傷。を。を。視。る。あ。小。馬。小。射。挿。し。矢。の  
あり。み。ま。羽。箭。も。大。ひ。あり。る。由。へ。抜。せ。て。是。を。親。と。あ。小。矢。の。根。へ。三。寸  
あり。し。得。小。強。氣。の。信。長。も。舌。を。振。ふ。き。驚。嘆。さ。し。諸。人。危。き。事。  
小。こ。そ。遠。量。の。遊。び。身。小。受。な。骨。も。徹。塵。小。せ。る。ま。き。小。と。志。名。怖。し。一。八  
り。う。後。の。發。擧。小。も。が。り。と。そ。の。や。と。留。め。る。重。せ。る。以。ぬ。  
然。不。小。比。敵。山。延。曆。寺。へ。皆。悉。く。燒。亡。し。て。一。彈。指。小。灰。燼。  
と。あり。二。千。の。衆。徒。も。救。せ。盡。し。て。殿。ま。り。ま。有。心。の。旗。軍。は。是。を。嘆。れ。  
桓。武。天。皇。山。城。小。東。安。謀。を。定。め。こ。も。ひ。皇。代。不。朽。帝。都。の。遺。後。不  
邊。將。の。名。揚。小。し。傳。教。大。師。物。を。奉。草。劍。あり。る。山。を。ま。り。百。歲。

小強馬之室を共小焼却せしむる末世の今小もせよ。など眞四討は  
 ろうんやいと眉を顫めて驚くを。切て大將信長の山門の衆徒を  
 改畫して玄来より怒を散す。欣悦こそ小過べうと雀躍をこま  
 飲びてひ則地小坂本へ城を構備志賀郡の領地を添く。明光  
 秀小こまを賜う。落び佐和山へ御降陣あり。小も急小臨がられバ  
 一應降城をす。一と。後来の政事。今謀さ。同日亦一日をりて。改草  
 一御降城あり。由。浅井家よりも望軍せど姑くせし。静徳あり。秀  
 吉頼。智と走ら。敵方諸士を降服さる。小。謀謀ことづく。小。當り  
 て。流末小飯を。像く。招き。啼だ。とり。者。中。小。龍。宮。於。於  
 城。主。持。台。法。住。房。へ。勇。力。夫。不。欲。あ。る。由。一。渠。と。降。伏。さ。し。め。ん。

と秀吉。宮部小判。台。住。房。源。潤。小。對。面。を。威。儀。を。心。で。發  
 言。を。く。く。山。門。の。衆。徒。を。離。散。し。武。門。小。好。親。を。結。ば。し。一。こ。是  
 大願の心。ならん。す。が。誠。小。こ。ま。を。謂。ん。原。来。出。家。法。終。を。亦。の。佛。道  
 を。得。く。九。丈。を。化。な。し。救。を。し。む。と。大。願。と。を。然。る。小。戰。國。乱。せ。た。れ。が  
 遠。き。苦。切。の。涙。夜。より。の。戰。鬪。の。世。を。平。鎮。む。一。萬。民。塗。炭。の。苦。を。救  
 へ。是。小。越。も。善。事。の。あ。ら。し。と。發。起。し。一。簡。小。て。佛。法。を。兼。武  
 術。を。學。び。誦。經。せ。ば。して。云。書。を。讀。良。小。仕。へ。乱。國。を。鎮。め。ん。と。の  
 心。あ。ら。し。や。是。誠。小。天。小。稱。ひ。神。明。佛。陀。も。背。面。を。多。し。然。り。と。の。心。も。亦  
 志。の。こ。し。て。い。ま。ご。その。天。運。小。諧。を。と。ま。亦。謂。い。ん。と。是。を。推。小。淺。井。と  
 り。て。力。と。ま。る。へ。亦。於。於。を。招。く。種。あり。又。越。前。の。船。倉。の。天子。を。桃。下  
 公。方。小。甘。り。と。ま。美。我。京。小。一。身。と。る。長。政。の。是。運。徳。あり。倘。願。志。を。遂。ん。と



織田家の  
三子  
岐阜の  
於元服



ありし時運を料て天不順ひ以て小幡とて烈忠一玉に信長へ公方せ  
 補佐し四海一統なほしめん事あるごとく成就せん然も是れは是中の  
 所願も備ひ道心満ちるごとくやと理を貴道と推されば致潤不志は  
 心根を當りて居後より折衷を以て此上にも猶同志する事有郡  
 伊豆の城を宝水小幡とて折衷を以て織田家小幡とて折衷を以て  
 宜しく提督するべしと望く約と別を以て元龜二年も既嘗て明は  
 之象士中 信長波卓小幡象士あり。歳旦は禮形の像く。遠月吉原  
 と提督を以て之個の御曹子元後あり。嫡子奇妙九とて勅九郎信忠  
 五歳と號らせ。二男茶釜九勢別也島と北畠之助信雄と号らせ。二男  
 秀九勢別也島と神戶之七郎信孝と号らせ。各波卓の城中にて同日  
 小幡と加へらば。若長上下最長あり儀式あり。此時に別横山は

城を本下孫吉身秀吉も兼備する。波卓の御悦より。波卓(象  
 城せしむる。禮賀終りてその序小幡井退治の事あり。小幡井  
 城を若長房と稱する。是れ置る事種々相釋あり。由(感悦斜  
 ろして。別の後、秀吉小幡を以て命せしむ。本下もまた大切の城  
 番あり。長を以て。波卓に別謝賜りて。別當てども帰る。此は  
 浅井長政の横山城の實を以て。本下在る。是れは降小幡一城を攻  
 陥さんと。五千餘騎少攻を以て。留守へ行中重治あり。御と盡し  
 防衛する。八百小幡は。小幡を以て。遂小幡構せり。破らば。最長  
 くぞ見ゆる。本下秀吉帰城。是れは遠威小幡を以て。敵を以て。後  
 た横小幡あり。秀吉城中小幡投る。重治細め防衛の事。是れは。秀  
 らひ。破換と修補。是れ持固め防具。嚴重小あり。是れ。敵を再び。

せむ。向念ひつる小日を送る。然る小宮部の善住房の玄来本下と照  
灼して織田家小降の準備しつるが切て國友の一族も破りて降参  
の證小宮さんと自隊の兵士二百余人野村倉庫が凝りたる玉友村の  
紫小押進せ計て一遭備といふも野村が従士藤岡友吉が為院小  
ころ後痛く擊抜き殆危ふりつるを友田近右衛門小枝けらる。北  
へて退取小本下が加勢こつて加藤虎之助が約二百金騎小て後援  
せつるが善住房へあはさ小標せし強き宮部へ退りつる。これ小依り  
善住房へ秀吉が懇切を感謝し日と経て地敵来愈しつるを玄  
来本下小約せつるの伊豆の城主宝泉房を將佐小せんと屢これに  
勅めつるを是も全く織田家小降仕し。公方家へ將佐と書し  
浅井、敵討のみをあはれを長政新と听しつるも烈火の像く憤怒し

昇地小謀伐せむるあしじと同年四月十二日長政つる出馬し。午  
余騎小推多つる。伊豆の城中小燒きつるも領つる事さむあは  
驚く。軍色も増く。家宰堀江傳右衛門の武道功者小勇さつるを  
一面園を嚴く防ぎしかど。進む方右に攻投つる。却て陣車の按むる  
のみ。益小濃別務孫江篁人目根野備中も弘就同小二存つる。龍真ら  
先承う入。秋篠龍真。福富山藩城の後君長こくつる。龍真ら  
朝倉を情し。目根野兄弟の浅井を頼む。小宮小遊宮へしつる。長  
政依びて是を用ひ厚く款待せらる。遠道長政伊豆を攻んと目  
出馬つるも。弘就弘進も出軍中。小あり。長政目根野兄弟を  
招ぎ。杉當城を攻むるといふも。速時小落城を。よし。芳徳は。は。やと  
訊る。小兄備中守重しつる。能く城中小態を。試つる。小切要崖も。宣



磯野  
丹波守と  
あがむく

伊黒攻ふ  
日根野が  
智計



つねに城を頼むにあらざるべしと後援の勢を後れはるるん定めて  
 明天小も平らなれば後援の勢来るべしと行時も松澤ありしこの上は  
 只後援の語を断截て城を攻至るに牢城久しうなるがを計策  
 へ形程よくと告る小長政感悦はし然る早計ありと二千餘騎を  
 二隊小よりち二千餘騎を日根野小與へ長政二子の云せりて城を攻  
 んと準備はし東西南北を士と宝泉房が密使小敷成磯時が  
 濃守るる鴻の城小馳遣えし伊黒の後援を謂容るる小ぞ磯野  
 負正こをと听意時至まらるる長政の現立我母の悲歎あり先伊  
 黒城小後援と後井城を新崩し怒怒のあつたけ空きんりのと速時小出軍  
 の準備を頼む信長は軍約あり將佐さづけ城小をおく後井戦を  
 推さるる小相救ふべしとと東謀さるる小より何の憚るるなりとて

伊統々五百餘騎樓下探てぞ推出を彼欺使はる歸りて磯野が返  
 答せざるを長政こを日根野小傳ふ兄弟の事成りしとつ又將  
 小謀合て磯野が進来たる路條へ埋仕りて相待り丹波も勢も  
 知らざ伊黒の城は後援ありと告統ましく呼ら起長政の脊筋より  
 強起んとを備前ちの二千餘騎を二隊小領て隊伍を整し一千餘騎  
 へ城小向をせし小長政の後援の款を返すんと構へとも磯野が  
 来るを此も怖まを双軍際なく近づれり法井の後陣赤尾兵  
 濃も同影を湯同影助父子二人活く磯野小撃て薙る城の聲を  
 よりも埋仕りし日根野が軍勢背面の旁より散起る後一夜小  
 攻起るも慮らざる奇小怪き礼起るる市と智勇備を日根  
 野は隙際あつせむら起るる得小横死丹波も寡せりて衆



小治しごと。及ぶ事。たれを量りて。一方の慮せり。ち破る。言。時當りて  
 退ける。遠國を統さ。當城をも。一時小攻て。臨を。と。言。統せり。ち  
 蒐威を。桑。總。勢。一。級。小。攻。起。る。城。中。の。兵。の。磯。野。の。後。援。敗。れ。と。所  
 へ。諸。力。を。墮。し。防。ぎ。戦。ふ。隊。も。後。に。勞。屈。の。色。見。る。由。日。根。野。見。守  
 正。魁。小。積。謀。を。系。越。逃。指。る。城。内。少。の。堀。江。仲。左。衛。門。二。の。九。小。進。て  
 見。守。を。敵。ん。と。き。び。く。提。綱。む。と。赤。尾。父。子。續。て。系。提。逆。小。堀。江。を  
 段。提。り。ま。六。城。を。む。ど。う。提。て。或。は。落。失。或。は。降。る。室。泉。房。も。危  
 急。せ。遁。ま。い。り。く。とも。な。く。落。失。り。ま。し。官。易。伊。志。と。系。取。て。長。政。亦  
 悦。の。眉。と。開。き。日。根。野。見。守。が。智。勇。と。感。ず。小。兵。帰。珠。せ。り。と。り  
 重。治。智。吉。休。日。根。野。見。守。属。信。忠。初。戦  
 大。小。憤。怒。を。鼓。た。る。瞬。に。自。己。が。も。と。り。て。自。己。が。も。と。り。て。權。と。い。ふ。も。も。痛

事。を。覺。ゆ。と。名。淺。井。長。政。切。量。の。機。察。ゆ。大。將。の。ね。ど。憤。之。漸。々。と  
 ぐ。あ。小。自。軍。を。り。て。自。軍。を。敵。に。當。家。法。滅。ぶ。場。あり。然。る。小。木。下  
 孫。吉。部。ハ。伊。志。落。城。磯。野。敗。軍。の。緯。と。所。悒。然。と。一。撃。を。受。け。磯  
 野。が。方。へ。使。者。を。遣。軍。法。次。弟。を。訊。ぬ。小。日。根。野。見。守。が。軍。配。を。缺。漏。も。な  
 く。告。り。し。る。秀。吉。こ。も。を。所。く。益。悒。と。誠。小。日。根。野。見。守。の。武。士。な  
 り。渠。何。見。守。將。力。を。竭。し。長。政。と。よ。く。輔。弼。せ。ば。自。軍。の。ため。小。大。款。な。り。  
 い。ふ。も。な。し。と。彼。見。守。を。將。佐。に。さ。ま。く。思。ひ。つ。る。由。竹。中。半。兵。衛。を。招。候。ふ。の  
 計。策。を。密。禱。し。る。小。重。治。も。亦。嘆。日。根。野。見。守。の。官。易。法。武。士。なら。ね。ば。如何  
 かと。説。とも。降。る。は。し。然。ら。ば。渠。何。を。り。て。淺。井。小。將。佐。に。を。せん。が。愁。ふ  
 る。處。な。く。一。般。の。あ。ら。ま。と。重。を。少。と。秀。吉。も。亦。小。隨。以。竹。中。を。頼。り。し  
 る。由。重。治。速。時。小。重。治。を。遣。候。し。獨。小。治。の。城。下。小。日。根。野。見。守。を。遣。候。し。獨。小。治。の。城。下。小。日。根



竹中重治  
 理と竭しと  
 日根野  
 兄弟と  
 説く



野が柘家を訊討め古人對面なり。死はし。謂客なる小機會よりもはるが家  
 小在り。難小やあつと。逆へ請對面する小初い。小は日濃列の軍師と崇  
 一。竹中守重。重治の。も。兄弟の者。大小愕き。ま。げ。座を。進め。別後  
 を。詔り。慈く。備申守。訊ぬる。貴師。先年。織田。家。小。屬。解  
 業ありと。聞つる。肩。入。露。出。の。夜。を。絶。小。被。最。寔。に。さ。不。休。小。俺。們  
 之。同。訊。一。至。ふ。こと。急。密。なる。縁。故。と。同。を。重。治。是。小。何。遠。呼。小。あ。る  
 と。聞。旧。好。の。情。義。を。さ。さ。む。寸。志。を。識。せ。要。さん。こ。め。得。く。辱。來。へ。る。を。并。も  
 是。小。何。の。心。小。我。秋。孫。の。家。を。檢。織。田。小。屬。せ。一。舉。止。と。之。道。の。不。為。と  
 かり。あ。ら。ん。が。知。ら。ず。如。く。乃。吏。角。張。の。初。より。他。小。對。て。騙。ふ。こと。を。處  
 妄。言。語。と。發。せ。一。緯。に。我。天。眼。の。あ。る。ね。ども。時。運。を。察。し。諸。民。を  
 憐。れ。一。遭。織。田。家。小。屬。せ。一。と。信。長。より。毛。領。福。を。奉。ざ。れ。ば。居。る。は。さ。ち

當てり。維。本。下。が。仁。義。を。感。し。因。又。と。あ。り。て。天。下。の。こ。ゆ。小。軍。事。の。主。更  
 せ。と。さ。の。こ。り。秋。孫。純。興。愚。昧。中。て。大。國。を。守。り。器。量。を。是。と。さ。小  
 補。佐。を。とも。天。命。道。を。ぬ。吹。小。と。滅。亡。せん。事。眼。を。な。ま。さ。濃。列。と。も  
 て。他。人。小。附。與。國。民。を。憎。く。秋。孫。法。種。を。毀。ん。より。縁。ある。信。長。通。三  
 と。は。小。糖。の。な。道。理。を。と。り。小。も。あ。じ。と。極。く。秋。孫。法。没。落。と。余。不  
 小。着。行。て。あ。つ。も。是。中。へ。の。民。の。こ。め。第。二。の。秋。孫。家。法。断。絶。せ。る。子。ま。を  
 以。て。為。さ。と。ろ。り。此。小。同。く。會。才。た。る。秋。孫。彰。五。弟。の。今。歴。統。と。織。田。家  
 小。あり。て。信。長。の。恩。賞。殊。小。清。う。と。愈。乃。更。が。織。田。小。屬。す。最。初。の。約  
 束。を。ま。り。果。く。濃。列。平。定。な。國。民。安。樂。の。天。を。頂。く。慈。く。小。足。下。何  
 稲。葉。山。を。退。去。せ。ら。ま。と。君。臣。も。小。東。西。と。あ。り。る。ひ。初。天。の。佐。く。ま。小。披  
 助。せ。ま。し。後。こ。好。小。あり。と。所。が。今。亦。清。井。小。遊。家。と。緯。こ。も。天。命。を

へんをいふ。指さるる會都。一。門あり。この好の逆徒のいふ  
 小乃を朝倉もす。愚將中。公方。不忠義の罪科あり。海没の响遠  
 くるは。願の念と投けて。以て。義あり。この小津井長政。白論を語と  
 する。小腹を。是下。倭兄。龍興と守護。て。兵遣と。逃れ。する。牙の損を  
 と考。朝倉。浅井。が。家運。傾。死。を。道。の。所。為。と。も。願。を。更。之。落。の。を。若。若  
 恨。と。増。し。め。主。從。槽。檻。の。間。小。あり。て。汚。名。の。死。と。い。こ。さ。う。緯。實。の。若。若  
 あり。手。否。や。信義。の。道理。と。察。至。る。形。の。倭。も。死。緯。あり。ん。恰。も。眼。を。抱  
 たる。人の。測。小。投。ざる。聲。命。あり。嘆。息。と。る。小。憾。と。も。遠。と。若。ん。が。こ。め。小。来  
 たり。別。條。小。舒。演。と。辭。も。な。る。主。從。と。思。慮。と。遠。ら。一。分。の。事。務  
 を。料理。せ。る。へ。と。落。び。譚。話。の。詞。も。な。る。突。と。座。と。辭。て。帰。り。たる。兄。弟  
 の。跡。小。惘。然。と。して。死。余。酒。小。醉。と。る。儂。く。雲。時。詞。も。な。り。し。が。熟。と。思。ひ

編らる。小。竹。中。半。美。湯。が。東。せ。一。一。至。理。の。言。論。あり。自。入。龍。興。愚。と  
 情。あり。こ。も。小。濃。別。と。退。去。と。も。こ。も。補。弼。と。る。小。術。あり。或。時。の。別  
 の。佐。々。末。と。情。も。或。い。と。好。小。技。助。せ。られ。又。浅。井。家。小。宿。客。と。緯。會  
 災。禍。と。招。く。門。あり。こ。も。義。系。の。弱。將。小。く。信。長。小。猜。ん。こ。と。か。り。ひ。も  
 とう。を。浅。井。と。勇。糧。と。も。久。政。愚。直。一。途。小。く。謀。士。の。練。小。隨。と。ど  
 是。滅。亡。の。消。さ。る。俺。們。が。く。技。助。せ。る。情。嫌。と。兼。る。恩。義。小。繫。が。れ  
 辭。と。練。ぬ。ぬ。の。と。あ。る。と。遂。に。他人。の。戦。中。小。戦。死。せん。も。料。り。が。こ。困  
 窮。の。うち。小。才。短。と。注。成。も。天。運。と。後。と。あ。る。小。濃。の。魁。の。締。投。り。こ。と  
 こ。好。小。倉。浅。井。と。情。も。遠。身。と。揚。り。し。復。も。娘。嫁。あり。若。若  
 別。して。密。する。緯。も。龍。興。俺。們。が。練。と。用。ひ。ど。流。寡。の。周。若。と。忌。然。ひ。富  
 貴。と。美。次。む。意。あり。由。一。体。こ。と。と。得。ど。朝。倉。浅。井。と。輕。し。緯。と。細。ひ

さら再び家名と興さん小義系長政と督力とをともせし止満足はし  
 と兄才倫と割くたう。密詮教訓りうら。備中ちり重なる。別々重治が  
 守報小たるも同若しく。不忠不義の所作あり。亦ふらあ俺們兄弟自ら  
 我等の君臣の道不背くを忠義とちる小似これをも誠と言は能與と  
 大丈夫の勇士小比く。心算をせ末世小傳流さまく思ふ意も今の像く。謀  
 安途の思案たること。簡要なると謂うべ。然るに迷地小他國へ越さるる後  
 小まきい始終全き障あり。然るも柵が身個のうを思ふことども主君  
 と重んずる朝倉はるを離りやう。方術よりて謀らるべし。能く急小ら

成さうらん。所謂ハ躬倉義系。弱愚味ありと。どもは家小  
 湯ひんどの思慮ある軍多るまをせ。餌を小俺們と勾引せん  
 とする。畏小羅らぬ。めは別居急小退去の事を謀る。主役の身  
 小害あるべし。遠以後ハ。この野射より。落命と懸死た右小恩と  
 兼ざるや。心小掛て過とす。明天小も能與越前と退る。意空  
 々まども。心算躬倉小信めらる。容易道は出さうらん。此小周て俺們  
 も時節を察合せ。退去をさんと初めらる。小ぞ。弘統も縁小りつ。こと  
 是小隨ひ姑く。近江小住りて。能與が方。潜小通下。越前退去。法事を  
 計る小。孤二右。あつが。朝小違を。能與被地小行。と。壁便。女を。孫家の  
 勇。謀士と。招き。と。計る。り。は。量と。切小。食意。を。能與。原。来  
 娘。酒と。好め。討らる。との。知。と。と。能。び。荒。む。小。義。系。も。又。さ。と。交。軍。と

得たりと思ひ居るを盡くして馳走し、是は龍興も是小婿論ひ勿く安  
 樂のよりひ好まば退くべし意さす小婿は儲りて本下藤吉郎八日根野  
 見守と申さんと行中不計のせたる小重治小婿より之帰り、渠は見守と  
 説く言詞は日根野が心中も親家とて詰りて小婿吉吉と後同者  
 のつて見守が拳止と寝てをまば一層案下煩ふ態小婿は湯井を助る業  
 もる。こは言さるるまば大小依び唯已後の見守と自分小婿依びにめんと  
 計策とて廻りたる。向小同来七月十九日信長嫡男勘九郎信忠  
 改草小婿と、信物の親式ある信長諸士と誅滅し、然バ勘九郎が物  
 戦小北近江(出馬)小婿境と一撃とて。同日改草と数足せられ  
 改草の軍勢を率し玉ひ十日小婿小婿も虎洲山雲雀山小本陣不  
 と居るまは小婿と改草魁隊の主將柴田勝家佐久間信盛本下

秀吉丹羽長秀蜂屋頼隆の五人小令を各自勢を引率し、小婿の  
 街巷を撞壊、小婿進法井堀を匂出さんと之は丸を巻くと推  
 極りまは城を織田の猛威小恐怖し、防門くを守固めて敵一人も  
 出合まは織田勢十分小盤妨。軍威を真しと引退し、藤吉郎の  
 日根野が安否長改を控助らるや、行中が詞が小婿惑ふ。退く小婿と  
 その誠小婿の丸を盡くして攻進し、しうとも日根野のから、發来一人  
 出合まは事休ぬ第一渠は見守と他の要處へ加勢とて遣し、さら  
 ん陣のやと淺井家大切の守城する山本陣を攻をる小婿河内  
 路中安養寺之節は急候防戦とるの。遠地小婿日根野八日根  
 乃り素より極軍の本下堀、暫時の軍小敵首六十余級せらち投てたこ  
 目を色を放火し、破竹の像き烈威を顯し、小婿虎洲山(退き

信長の所感斜めを勇悦限りなかりし

前波吉継恨之降織田家属 朕坂猛勇

國家の難を孺より大なるなり。五戒は不孺の五常の禮あり孺せざるは禮のつらき達を理ふは親出を躬倉家の内けり。越前守の奉行職隨一の功老おて前波九郎重隆吉継といふあり軍も味も味も味もねど色慾の世の分別外さうは流せば愛小満惑の事こそ散る。是道若波が部下小大野佐右衛門といふは有る。一個の娘せりあはるが老や若く鷹と生るの鏡娘の空色は深ること。昭若西施の國久小も信長より。関月蓋花もこそ小やあらん吉継の心と熱く親の自己の部下のまじり密小ここと懸望なり。父子とも縁約ありしは九郎重隆渠と妻とあり。密意漏さると期りたる小遠頃朝倉は密分る。小孫孫治郎之補

親真の弱年小しと思意淡々を放逐する緯論を弄らる。其を義系が昼夜と相く酒蕪せりて登登る。臣佐よく正しきも堪へる色小荒む性あり。過小し春は末なるが酒典小系とて城中と花小准へく漫歩し。不外大野佐右衛門の邊をさつ。た右小看まは一個の帯女山吹の枝を童女小折らせ思ひ有げある。義系と親真の旁を親りし。空月小奇香あると疑ひ花の言人ととらると怪しむ。親真こことんるよりも。恍惚ごとく骨肉も消らるをうり小執念しきとどす結果は小羞殺て。這情ありと義系小露隠小も詰得を。心持執しと九郎も過し。金風吹當天小ひく多るが恐びごとく一夜の酒宴小回傍小憚り地もみろと。親真耳小口をて大野の娘の緯を譚る。義系所く。荒雨と嘆ひ。是下は怪小詰ふりけり。執者小もおは我下諱りて早速喉取



齊藤  
龍興  
前波  
吉繼  
戀着

豊臣巴日記卷之三

廿六



豊臣巴日記卷之三

廿七



まわらまぐ。と心算く謀ふ小を龍興かきを雀躍しく。欣悦を傳ふ  
 遺令宵小も督譚調えんと。欣會も忘まて。後居り義系ハを習小令  
 彼女が素姓と詰さる小大野佐右衛門が子多し。早速又を呼出  
 習のりのより口属娘とて龍興の意を告ぐと。言渡を佐右衛  
 門小も情を迷惑の態あり。近習の者こそを討り。何縁故漸  
 春まふさぬやと鞠問せらる。猶更小を流が妻小せ。こも謂まを  
 雲時應小惚さ。漸く小顔と拾。龍意腹深とす。つこの京せ  
 こも縁をの義の親一個の我意をのり。も料理をじ。娘小もよく京  
 所せ。厥後東漸各申べ。とて汗と拭り。娘小と告られ。バ  
 渠もどうの情をらん。一端吉継と契を。今さら外人小帰る。言  
 中。只願津枚と奉じ。と嘆息を。居る際も再と義系の傳信を

ま。詮術をて吉継小龍意の位と物證。吉継所て是ハ長策大計が  
 小。定る丈のみれ。主人小も形取の詞と命を。あらんと。と士小便  
 て。自意あるよし。准活小京と。り義系と。に。氣色と拾。彼女子吉  
 継。妻小もせ。厥ハ内證の傳小。と明白小の意を。し。詞や一端龍興  
 龍意を。と。謀ふ。今更。要約せらる。父也。定ま。事と。い。わ。ら  
 我小。潜。と。妻。と。置。バ。不。義。密。通。小。等。一。る。べ。吉。継。回。功。中。心。も  
 て。罪。を。赦。て。我。も。し。知。さ。る。分。小。て。擲。べ。女。結。縛。ハ。斤。侍。も。や。の  
 龍興。氏。ハ。参。り。せ。違。背。の。さ。バ。父。子。も。小。謀。と。つ。れ。ど。と。罵。り。ら。る。小。を  
 士。大。小。恐。怖。を。吉。継。も。密。に。告。知。せ。佐。右。衛。門。方。ハ。龍。令。中。使。者  
 龍。脩。小。京。遣。し。娘。と。龍。興。ハ。送。り。せ。る。吉。継。心。中。擲。裂。如。く。腹。意  
 骨。髓。小。徹。到。り。ま。の。龍。興。嬌。酒。小。龍。も。と。妻。と。り。て。奪。取。を。形。儀。と

心を條不義と申す謂ふ人を道とやいせん。活々奸賊と此地小倉の邊に  
 家の滅亡をせむ。渠を除いて後世患の根を断截せざる。鬱憤を散せん。の  
 と部下の富田彌平、増井正内、毛谷猪之助の三人を爲す。彼  
 國家のこゝ小龍興を毀損せん。と政企する。義系は之を指し、  
 若波吉継を命じて、龍興を誅へ。猪之助、毛谷、吉継定めて不使ある。心  
 を屬て、龍興は小九郎も亦憤懣の余り、出仕をせざる。も言、龍興を恨  
 むる氣あり。小九郎、諸の吉継を恨む。小倉のふり、人とは是より。若波  
 遠とわら。そのもの。近士の軍。若波吉継を密謀といふ。之を知り  
 乃ん義系小九郎と告ぐる。由(思)將のこゝ。時小九郎、害  
 せんと。島居、高橋、寺小禪、至ふ。遠西人の信、龍興の徒、これ  
 若波見小九郎と告ぐる。欺希て誅せんと。密禪、刻あり。若波、池田、人

大志を行、小倉のふり。吉継、小遠、密謀を通。乃ん九郎、大  
 小、憤懣。若くは。道なき。も。は。の。道。を。ひ。を。道。の。を。  
 加護、由(小)國の仇。龍興を。除く。由の。と。辛。若。と。わ。と。打。て。我。身  
 小、誅。を加。ふ。同。味。論。小、絶。し。つ。遠。後。終。害。せ。ら。ん。よ。り。の。方。便。を。以  
 づ。龍興を。殺。害。せ。ん。ば。あ。ら。ん。と。富田、増井、毛谷、彼。を。招。き。池田  
 が。懇。切。の。情。を。以。て。報。せ。し。龍興。を。同。言。禪。若。方。便。生。死。の。涯。境。あり。若  
 助力。と。稱。し。と。謂。ふ。を。増井、正内。遠。初。小。及。び。て。計。謀。も。終。り。徒。小  
 龍興。死。せ。ら。ん。よ。り。の。借。小。織。田。家。小。降。参。り。非。を。伐。正。を。補。佐。せ。り。  
 乃ん。若。世。小。殘。流。さん。と。勇。士。の。願。ふ。所。あり。と。詞。を。烈。し。て。初。め。る。小  
 龍興。若。富田。の。も。人。も。異。口。同。指。小。誘。初。り。乃ん。忠。信。あり。吉継。も。遂。小  
 心。身。或。れ。と。遠。計。策。小。同意。なり。國。と。違。く。方。術。を。謀。り。て。若。波。を



前波吉継  
 増田毛谷の  
 輩と  
 伴ひ  
 織田の  
 陣へ  
 降参



治之を後地小残りし二個の吉健が之の據る事と孰知軍のゆるぎ  
 なる義系は前小出方儀兼所むが元波九郎多満自據と率て出奔  
 せしは是徒事少のあらざるべし。俺們之人を率て追蹙して活捉  
 せしん。こを許容せしめふあやと實にやう小言快くも義系こそ  
 欺謀とあつて收退蹙と敷圍地を兼所り之人偕小自家小歸りて  
 自營と率具。若もかく城門と弛出。府中より吉健小退意心  
 寧しと一抄小夜と日小儘ぐ近江小来り大澤次郎た基小縁好のあま  
 ばい道小怙憑て降参を本下退を重投事治始末を訴へる小本小察  
 量るるも六疑を述してこを調糸大將信長小を詰りて四人の降参を  
 許容せしむ。こを小よめて元波依の恩を謝してぞ帰休りる。備ま  
 船倉義系の前波四人出奔して織田家小降参せし條を追つて信

所たる由へ疎網をて過ると後悔をこども還らざるは彼此小心願ふて  
 浅井長政先達るより加勢の事と謂ふもこもこめ小延引せり。  
 備まの近江小出張せし。織田陣の忠信信長小言をこもこめと乱妨を  
 事日、ひれも切らざる由へ久政長政堪る。越前へ使者をて。救急も  
 とむる。驢馬の宛余自營の飛が如。義系今ハ棄置せり。魁軍と  
 して景鏡小五下の益士を引率を直地小言小恙陳して浅井長  
 政小静力を勦む。小言の之後こを得く。微些心を寧ん下りまこも織田  
 家の大軍款がごと。城を固めて相むる。然れど小秀吉ハ頼り信長ハ  
 條。虎洲前山小城堆を築き小言と直下小現れし。款の軍機を  
 知る。小言の自營小来りて誠之遠るべしと勸めたる。頼屋もこも  
 宛小言の向敵中同様の場不ぬまが守るべき事候ふはこも幸問わ

豊臣評伝 卷之二

廿五

く置まけり。本下秀吉遠般出陣こそ。壁便ひき遠懸威小是と。北  
 と論せむ。此岩と流石に玉(う)しと。頗小勅め重さまらる由(ゆ)然(しか)る。早(はや)く準  
 備せよ。佐々内亮助福富平左衛門と奉行さす。筑前城の結構を余  
 屬らして同月廿七日。秋祭を行はせ。夜(よ)に日(ひ)小次(つぐな)急(いそ)ぎ速(すみ)玉(たま)不(ふ)令(しや)  
 遠(とほ)修理(しゆり)事(こと)小(こ)ひて。防(ぼう)衛(ゑい)の準備(くんび)簡(かん)要(やう)ありと。柴田(しばた)信(のぶ)家(け)本(もと)下(した)秀  
 吉(よし)佐(さ)久(く)間(ま)信(のぶ)盛(もり)丹(に)羽(う)長(なが)秀(ひで)峰(みね)を。榎(えん)隆(たか)遠(とほ)立(た)將(しやう)あ。く。自(じ)勢(せい)の精(せい)を以(もつ)  
 虎(こ)河(か)前(まへ)山(やま)と小(こ)谷(たに)の間(ま)と。風(かぜ)も空(そら)ま下(した)と。斬(き)截(せつ)て。淺(あさ)井(い)新(あらた)倉(くら)の。壁(かべ)護(ご)とせ  
 らる。後(ご)陣(じん)小(こ)池(い)田(た)信(のぶ)雅(まさ)内(うち)藤(ふじ)孫(まご)分(ぶん)隊(たい)中(な)内(うち)信(のぶ)不(ふ)破(は)行(ゆき)内(うち)中(な)野(の)下(した)  
 隊(たい)佐(さ)達(たつ)と。山(やま)本(もと)山(やま)の。壁(かべ)防(ぼう)と。九(く)毛(け)倉(くら)領(りやう)市(いち)塔(たか)九(く)所(じよ)左(さ)衛(ゑ)門(もん)水(みづ)野(の)下(した)  
 野(の)中(な)門(かど)八(やち)舟(ふね)右(みぎ)衛(ゑ)と。當(あた)向(むか)り。小(こ)谷(たに)陣(じん)小(こ)池(い)田(た)井(い)長(なが)政(まさ)鐵(てつ)田(た)岩(いわ)備(び)の  
 隊(たい)佐(さ)達(たつ)と。虎(こ)河(か)前(まへ)山(やま)小(こ)城(じやう)と。流(なが)る。厥(その)時(とき)佐(さ)佐(さ)と。見(み)る。より。新(あらた)八(やち)本(もと)下(した)の

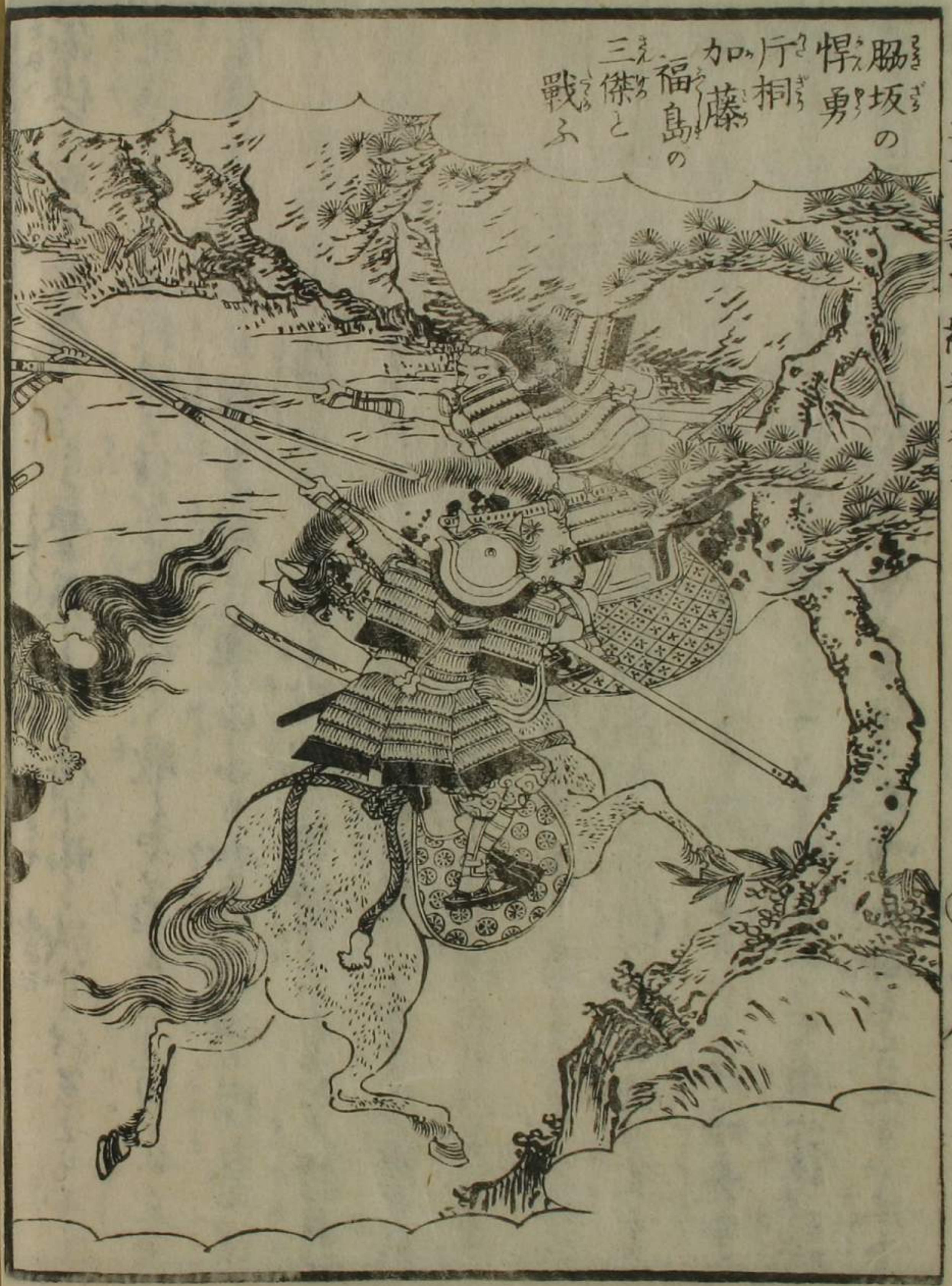
陣(じん)こそ。数(かず)る。ま。被(か)山(やま)小(こ)城(じやう)と。築(きず)る。ま。て。自(じ)身(みづか)死(し)罪(つみ)免(ま)れ。一(ひと)合(あ)戦(せん)て。坊(ぼく)けんを  
 彈(たま)丸(たま)小(こ)丸(たま)と。福(ふく)ゆ。ま。義(ぎ)系(けい)出(で)馬(うま)さ。小(こ)田(た)と。佐(さ)士(し)微(ひ)ま。不(ふ)難(なん)さ。く。越(こ)え  
 前(まへ)へ。使(し)者(しや)と。走(は)り。せ。く。出(で)馬(うま)の。催(もよほ)使(し)頻(ひん)あり。義(ぎ)系(けい)さ。こ。そ。と。察(さつ)し。ら。る。由(ゆ)の  
 別(わか)れ。延(のび)引(ひ)り。り。ざ。し。早(はや)速(すみ)出(で)馬(うま)一(ひと)枝(えだ)ぶ。ざ。と。て。二(ふた)萬(まん)金(ごん)騎(き)と。引(ひ)率(りつ)さ。一(ひと)萬(まん)  
 石(いし)と。突(つ)突(つ)せ。ら。る。當(あた)天(てん)の。柳(やなぎ)ヶ。瀬(せ)小(こ)谷(たに)陣(じん)あり。翌(あした)朝(あさ)小(こ)谷(たに)へ。出(で)張(は)り。と。大(おほ)藏(ざう)  
 の。據(よ)る。小(こ)結(むす)陣(じん)を。佐(さ)佐(さ)と。是(こ)こ。と。新(あらた)賢(けん)あり。旗(はた)中(な)に。勝(かち)と。據(よ)る。小(こ)丸(たま)と。小(こ)女(め)  
 陣(じん)と。固(か)め。ら。る。朝(あ)倉(くら)小(こ)向(むか)く。對(たい)陣(じん)あり。ま。づ。依(よ)頼(らい)小(こ)指(さし)揮(ひ)と。傳(つた)へ。威(い)の。高(たか)を。提(た)  
 させ。玉(たま)ふ。朝(あ)倉(くら)勢(せい)も。劣(くわ)ら。じ。と。丙(の)戌(しゆ)の。高(たか)を。合(あ)せ。り。長(なが)政(まさ)と。是(こ)こ。小(こ)丸(たま)と。こ。り  
 調(た)う。些(ち)の。安(やす)途(と)と。こ。り。も。義(ぎ)系(けい)出(で)馬(うま)四(よ)日(にち)と。名(な)く。バ。虎(こ)河(か)前(まへ)山(やま)小(こ)城(じやう)に。於(お)け  
 理(り)の。容(ゆる)易(やす)登(のぼ)り。さ。ま。ま。し。り。終(は)り。と。兜(かぶと)置(お)き。ら。る。由(ゆ)の。然(しか)る。一(ひと)軍(ぐん)と。坊(ぼく)けん。と。こ  
 新(あらた)倉(くら)勢(せい)と。謀(まわ)り。合(あ)せ。長(なが)政(まさ)と。こ。り。二(ふた)千(せん)金(ごん)騎(き)と。引(ひ)率(りつ)さ。り。小(こ)谷(たに)城(じやう)と。擊(う)ち。出(で)

まは、物倉式部丞系境山邊長門守吉家、千余騎小てこまを動か  
 織田方勢と見らるるも、柴田勝家、本下秀吉、一時小陣勢保出之儀  
 長門守、指揮せらるる。福美伊豫守、同右系境同去之、并こまを柴  
 田小加勢に。後陣の池田孫三并、本下陣へ加らる。本下池田、淺井  
 小權り、柴田福美、千余騎小て、物倉勢小撃て、落る。彼軍も同く  
 二千餘騎、是を逐へて、戦ひ、細む。然、法井備前守、長政、八云、本下、好川  
 の合戦より、遺り、敗れ、物倉を、遠及、信長、の旗、おまを、も、撃破、らん  
 と、自軍の勢、を、號、懸、け、し、自分、正、魁、小、馬、を、進、ま、せ、烈、火、に、燒、く、指、揮  
 と、ま、は、遠、陣、小、從、ふ、千、余、騎、の、指、揮、せ、る、勇、士、の、一、部、も、背、陣、へ、建、て、そ  
 極、威、を、奮、り、揚、る、る、勢、威、の、活、る、ま、は、本、下、秀、吉、隊、伍、を、同、く、自、軍  
 を、制、し、進、ま、せ、む、敵、は、流、石、を、避、ん、と、と、る、境、の、隊、を、先、小、軍、行、小

隊、伍、一、同、小、軍、落、る、と、と、擊、破、る、る、得、小、傷、る、淺、井、は、急、ぎ、も、ち、し  
 疎、漏、で、進、ま、り、子、孫、の、体、を、本、下、祖、と、歌、を、も、寇、と、池、田、一、飲、と、千  
 余、騎、を、ひ、と、推、し、小、權、を、撃、て、落、す、中、小、も、加、藤、福、海、が、傑、氣、小、信  
 せ、く、戦、ひ、法、井、極、勇、あり、と、い、ふ、對、挑、を、倍、々、あ、る、を、大、將、長、政  
 を、其、ち、ら、げ、武、士、を、身、と、り、遠、地、を、逐、へ、西、目、の、あり、と、ち、か、り、不、退、を、引  
 み、と、陣、り、喚、り、崩、る、自、軍、を、致、さ、達、溜、止、り、を、指、揮、せ、る、義、之、重  
 ん、と、る、勇、士、の、背、陣、う、け、死、に、晒、し、肯、小、あ、る、ま、は、矢、を、ま、は、し、と、踏、破  
 へ、ら、と、遠、へ、追、つ、小、あ、り、て、戦、ふ、小、長、政、が、旗、本、より、一、個、の、勇、士、指、揮、せ、る、  
 破、る、瀧、川、系、威、系、麻、呂、角、の、表、花、金、を、斜、に、ま、さ、る、勅、藏、亮、を、  
 繞、め、る、馬、小、ら、ち、強、干、檀、卷、を、指、身、小、あ、る、流、を、指、り、て、唯一、強、陣、地、  
 茶、若、波、を、逃、出、く、惡、虎、を、叱、り、像、を、ま、さ、る、大、喝、一、声、呼、ぶ、と、い、ふ、本、下



脇坂の  
悍勇  
加藤  
三郎  
福島の  
三傑と  
戦ふ



池田陣中へ瞬時もせを致投て右小撃たし瀉る小致起後小起  
 一息喘吹せぬ際小致馬武者二騎撤隊し狂怒小乗と馳せ  
 ばあま小敵とて云々を中を剛ひく通したるが池田が老當を念四時を  
 遙揮筆を使しり相々惜ま致士は居作り先利止んと擧て薙り將  
 時措し筆ひしが彼勇士が突突瀟々霹靂より再活なきの倉忽地り  
 槍小あり對戦りねて難免の態あり池田の云士六七騎著あてて  
 一度小致倚擱起り彼者まじも核すバこそ六七騎は致對敵  
 こそ一突再突扱登せしが潰けく二騎を隨當的ゆし右と左へ  
 突落し精神まじく盛るまは戸倉を報池田の云士揚りねて逃去  
 と逃とつきごと呼りて馬を跳りて不見の浪皮の獅子王天小降と  
 忽地神通を得るが如く怖懼まを脱ましく遠向木下の陣中より行

相助け逃去目と睨とて呼るやう已鬼神の如くぬきも我い木下の自内  
 小あわく行相助け見えり遠瀟々を答意よと發炮の像く擧鬼と  
 行向りのやといふ采小探合く双方より火烟を飛せし相計  
 龍噴虎怒と闘ひし勝敗甲乙更小領を致と見さう右より  
 加藤たの方より福海が瀟々間作り擧鬼も彼將を右方より推  
 提圍て殺んとて彼播勇士の猶も怯まごこの個の勇士を對敵とせし  
 暫時遠へ戦ひたるが傑氣の福海加藤行相遠英雄小擧起られ  
 馬を返して死に違くと人こそと道を通しと旗を葉ふて逃免るを  
 淺井の云士們遮り止め福海加藤を殺んとてまば木下池田が怒勢等  
 混むまじく戦ひたるも双方戦死騎員もまじも逝小こそを顧だ  
 死體を踏蹴逃り起生死を忘る播合なるが日光西山小射り



由(一) 双方とも小笠を退収。退陣せんを構う。石倉嶮、柴田稻  
 葉と大水小笠の戦ひ。浅井長政、軍使より。河邊、收り  
 ぐんと向ふ送りたる小笠。標引小退収。米田稻葉も退収せ  
 ず。退散、標引より。浅井の両勢、城田、引退  
 して戦換。幾何ぞと將檢する小浅井朝倉、小二百余騎、城  
 田方、小二百余人、常痴も、是も小准下りたる。然る小本、小常  
 業、今日、款、此一勇士、群小秀へ、檣らき、と尋常、ありと心  
 驚、日、櫻野、足、小あ、と、と、近く、と、と、寢、い、現、こ、と、形  
 當小形を、藏し、と、い、面、態、楚、と、視、認、ら、を、退、陣、し、も、こ、の、事、は、心  
 裁、あり、る、由、一、間、者、を、り、つ、く、に、を、る、小、日、櫻、野、足、小、の、軍、小、は  
 ち、と、松、坂、其、内、と、り、者、あり、し。實、否、を、推、て、若、々、小、を、折、安、途

あり、る、事、も、信、り、勇、士、と、強、く、此、軍、中、小、戦、波、を、を、ら、ば、い、と、憺、む、重、死  
 傳、小、お、ん、乃、望、集、も、將、佐、小、せん、と、は、願、ふ、と、を、せ、ら、ま、し、う

繪水豊臣勲功記四編卷之二 終

